

国立大学法人高岡短期大学の平成 17 年度（平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 9 月 30 日） に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

高岡短期大学は、平成 17 年 10 月に富山大学と富山医科薬科大学と統合し 4 年制大学となることが決定している状況にあって、法人化後の取組の更なる充実と 4 年制化に向けた新体制づくりに意欲的に取り組んできた。

平成 17 年度（平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 9 月 30 日）においては、教員のインセンティブを高め教育研究活動の活性化を図る戦略的な学内資源配分を引き続き実施し、科学研究費補助金については獲得額の増加をみるなど具体的な成果に結び付けている。また、全学的な自己点検・評価に引き続き取り組んでいるほか、教員業績評価についても評価方法等の基本的な考え方をまとめるなど、前進しており、統合後の発展的な取組が期待される。

統合後に向けては、教職員が一体となって芸術文化学部の運営に取り組む体制づくりに向けた検討を積極的に進めているほか、前年度に引き続き広報室を中心に新学部の広報活動に力を入れるなど、意欲的に取り組んでいる。

平成 16 年度の評価結果で評価委員会が指摘した監事監査機能の充実及び中期的な財政計画の策定については、統合後の課題であり、早急な取組が期待される。また、危機管理については、全学的・総合的な体制整備が不十分であり、再編・統合後における早急な対応が求められる。

芸術文化学部発足後は、3 大学再編・統合のメリットを生かしつつ、さらには、短期大学と 4 年制大学との違いにも留意しながら、目指すべき方向を明確にして更に飛躍することが期待される。

2 項目別評価

・業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化

運営体制の改善

教育研究組織の見直し

人事の適正化

事務等の効率化・合理化

平成 17 年度(平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 9 月 30 日)の実績のうち、下記の事項が注目される。

富山 3 大学の再編・統合時に大学が再編・改組して設置する芸術文化学部の管理運営組織を決定し、学部運営委員会等の各種委員会運営に教員と事務職員が一体となって取り組める体制としている。

科学研究費補助金の新規応募者や学生の投票で選出されたベスト・ティーチャー等に対して一人当たり 5 万円の「教育研究インセンティブ経費」を、公開講座・公開授業について開設講座数や受講率等をポイント化して評価しポイントに応じて総額 160 万円（前年度同）を配分する「公開講座インセンティブ経費」など、教員のインセンティブを高め教育研究活動の活性化を図る戦略的な学内資源配分を実施している。

常勤職員の定員管理は学長が一元的に行っている。また、教員に裁量労働制を適用し、統合後も同様の制度を適用することとしている。

県内3大学の再編・統合後の新たな事務組織について、新大学創設準備協議会の事務組織部会において検討を重ね、各大学の連絡調整、人事関係業務の一元化、会計事務の合理化、施設関係の課の統合等の再編を行うことや、新大学発足後は組織評価を実施することを決定している。

【評定】中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
(理由)年度計画の記載20事項すべて(重要性等を勘案したウエイト反映済み)が「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善

- 外部研究資金その他の自己収入の増加
- 経費の抑制
- 資産の運用管理の改善

平成17年度(平成17年4月1日～平成17年9月30日)の実績のうち、下記の事項が注目される。

科学研究費補助金の新規応募者へのインセンティブ経費の配分、教員に対する説明会・情報提供の充実等に努めた結果、科学研究費補助金の獲得額が1,550万円(対前年度比87%増)となっている。

テニスコート、グラウンド、体育館等の使用料金、予約状況等をウェブサイト公開するなど、積極的な施設開放による収入の確保に努めた結果、半年間で延べ13,622名の利用者から104万円の使用料収入を得ている。

「公開講座インセンティブ経費」の措置等により、公開講座・公開授業の実施を推進した結果、半年間で307万円の収入を得ている。

複写機の賃貸契約や、定期刊行物の購読部数の見直し、常勤職員の欠員をパートで補うなどにより、経費の抑制を図っている。

【評定】中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
(理由)年度計画の記載10事項すべて(重要性等を勘案したウエイト反映済み)が「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び情報提供

- 評価の充実
- 情報公開等の推進

平成17年度(平成17年4月1日～平成17年9月30日)の実績のうち、下記の事項が

注目される。

年度計画の各項目の主たる実施担当に自己点検・報告を求め（平成 17 年 8 月）未実施項目の実施促進を図るなど、自己点検・評価に引き続き積極的に取り組んでいる。

新設する芸術文化学部認知度を高めるため、広報室が中心となり、オープンキャンパス、各種シンポジウム・フォーラム、テレビ番組作成等に取り組むなど、広報活動に力を入れている。

教員個人評価の実施について、評価の目的、項目、方法等を内容とする基本的考え方を取りまとめており、3大学再編・統合後の着実な実施が期待される。

【評定】中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）年度計画の記載7事項すべて（重要性等を勘案したウエイト反映済み）が「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（4）その他業務運営に関する重要事項

施設設備の整備・活用等

安全管理

北陸地区の国立大学連合

平成 17 年度(平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 9 月 30 日)の実績のうち、下記の事項が注目される。

平成 17 年 10 月の富山大学、富山医科薬科大学との統合に向け、平成 15 年 5 月の統合合意書調印後、3大学で構成する新大学創設準備協議会の下に新大学創設準備推進委員会、15 の部会を設置し、260 回を超える会議で新大学の在り方に関する検討を重ねるなど、全学を挙げて精力的に取り組んでいる。

グループウェアの活用により、講義室等の予約を効率的に実施している。

平成 17 年度(平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 9 月 30 日)の実績のうち、下記の事項に課題がある。

災害、盗難等の予防・防止に関する対策を検討するため、危機管理対策委員会を設置しているが、災害、事件・事故、薬品管理等に関する全学的なマニュアルが策定されていないことから、早急な対応が求められる。なお、危機管理に関しては、全学的・総合的な危機管理体制の確立が期待される。

【評定】中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）年度計画の記載10事項すべて（重要性等を勘案したウエイト反映済み）が「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

・教育研究等の質の向上の状況

評価委員会が平成 17 年度（平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 9 月 30 日）の外形的・客観的進捗状況について確認した結果、下記の事項が注目される。

放送大学及び富山大学と単位互換を実施し、平成 17 年度上期においては放送大学で 8 名、富山大学で 7 名の学生が科目履修を行っている。

年度当初に学生が提出した進路希望調に基づき、学生毎に個別の進路指導を実施している。

教育研究活動の活性化を図るため、教育研究インセンティブ経費として、科学研究費補助金の新規申請者や学生投票により選出されたベスト・ティーチャー等に該当する教員に各 5 万円を配分している。

教職員が地方公共団体の各種審議会委員、研修会講師として活躍し、地域に貢献している。

公開講座を 20 講座（受講者数 348 名）、公開授業を 106 科目（受講者数 22 名）実施し、大学の教育研究成果を広く市民に提供している。公開講座については、富山県民カレッジの認定講座として単位を交付している。